

令和7年度第4回瑞浪市総合計画推進委員会 会議録(案)

1. 日時 令和7年10月22日(水) 13:30～15:00
2. 場所 瑞浪市役所 4階全員協議会室
3. 出席者 景山 英明
河田 淳司
大宮 康一(会長)
青木 泰尚
谷 佳樹
堀尾 憲慈
佐伯 さほり(副会長)
安藤 友美
小木曾 みどり
[名簿順、敬称略]
4. 事務局 正木 英二(みずなみ未来部長)
工藤 雄一(企画政策課長)
坂崎 慎一郎(企画政策課長補佐兼企画政策係長)
三浦 啓輔(企画政策課企画政策係)
5. 日程
 1. 会長あいさつ
 2. 議事
 - (1) 第3回会議録(案)について
 - (2) 各事業の委員会総合評価について
 - (3) 意見書の構成について
 3. その他

1. 会長あいさつ

2. 議事

(1) 第3回会議録(案)について【資料1】

<意見、質問等なし>

→発言者の氏名は伏せ、市ホームページで公表する。

(2) 各事業の委員会総合評価について【資料2】

1. 児童館管理運営経費(指定管理)

(委 員) 達成度の評価基準について、1次評価と2次評価で異なるかと思う。2次評価の基準は「目標を大きく上回る成果があり」とあるが、私は、目標を達成できればAで良いという考えで評価した。このような評価の仕方で良いか。

(事務局) 2次評価の基準は設けているが、委員の皆様にお任せしているため、そのように評価いただければ良い。

(委 員) 私も2次評価の達成度の基準について、「大きく上回る」の度合いを考えて悩んだ。「大きく上回る」は、例えば、50%ないしは70%増くらいかと思う。

本事業について、目標値と実績値の差がおおよそ15000人であり、概ね達成していると判断し、Bと評価した。

(委 員) 評価をCとしている委員もいるが、私は、目標値には達していないものの、担当課の説明を踏まえ、個人総合評価をBとした。委員会総合評価もBで問題ないと思う。

(委 員) 私は、子どものテストに置き換え、60点以上でC、80点以上でB、100点はAという感覚で評価した。この事業ではないが、Cと評価した事業もあるが、それは期待値を込めた評価である。個人的には、Bと評価した事業は合格点である。

(委 員) 私だけAと評価した。その理由は、コロナ禍以降の利用者数が増えていることを評価したからである。

→委員会総合評価はBとする。

2. 地場産品ブラッシュアップ事業

(委 員) 結果的には、それなりの成果があったと評価する。

ただし、私が本事業の途中から参加した際に、監修を受けた事業者の一部から、株式会社ビームスにメリットはあったかもしれないが、監修を受けた側にメリットを感じなかったという感想もあった。プロポーザル方式で公正に監修する事業者を選定したとのことだが、その基準は適切だったか。

事業目的として「市内産業の活性化」とあるが、これはあくまで手段であり、本当の目的は「ふるさと納税額の増加」であると考ええる。

(委 員) 瑞浪市の産業を支えている立場からすると、辛口の評価になっても当然である。

株式会社ビームスは、かつてプロゴルファーにウェアを着用させPRされていたかと記憶している。今回の事業においても、著名人等を活用してPRすることができれば

ばより良かったと思う。素人からすると、ビームスと聞くと良いような気がするので、そういう点でビームス効果が少なからずはあったかと思う。そのような大企業に入っていたのであれば、いつもとは異なる相乗効果が望め、また、誰から見ても、安心、信頼できる形で業務が遂行されれば、なお良いと思う。

(委 員) 全国展開をしている大企業に頼らざるを得ないが、それによって地元の事業者が少しでも潤うことは非常に大切である。

実際、プロポーザルという公平な手続きによって事業者を選定されているため、それ自体に問題はないが、今回の成果が、後継となる取組に活かされ、また、シビックプライドの醸成にかかる成果についても今後検証されたい。

委員の皆様は、株式会社ビームスをご存じでしたか。少なくとも私の世代では、ファッションの最先端の企業で、かなり有名なセレクトショップであった。ただ、今の若い方からすると、セレクトショップという認識が薄いかと思う。

→委員会総合評価はBとする。

3. 市制70周年記念事業

(委 員) 若手職員のアイデアから事業を実施したことは大変すばらしいと思う。今後も引き続き、若手職員の新しいアイデアを活かす事業の展開は期待できるものか。

(事務局) 今回の事業は、若手職員中心に事業を実施し、非常に上手くいったと感じている。現在、市役所の人事担当をしている秘書課において、若手職員向けの政策立案研修を実施している。この研修では、何度もミーティングを重ね、また、実際に先進地視察を行うなどし、最終的には市の幹部である部課長の前で発表をする。実際に、アイデアの中から取り組めるものから事業に活かせるよう取り組んでいるので、そのような期待ができると感じる。

(委 員) その政策立案研修は、市役所に入庁して8年前後の職員が研修の対象となり、課題やテーマについても職員自身で設定し、予算等も考慮した実現性の高い政策提案を行う。少しでもこういった若手職員のアイデアが市役所の取組に活かされると良いと考える。今回のこの事業もその研修の成果が表れたのではないかと思います高く評価する。

→委員会総合評価はAとする。

4. 域学連携推進事業

(委 員) 事業評価シートにて、「過去の域学連携に関わった高校生、大学生の進学先あるいは就職先が明示されているか」と質問があったので事務局にお答えいただきたい。

(事務局) シティプロモーション課の事業担当に確認をした。就職先について把握はしていないが、学校の先生より、ミライ創ろまい課の活動に参加することで、進学、就職に有利に働いている感覚があると伺っている。

(委 員) ミライ創ろまい課の活動に参加することで、進学や就職に有利となると参加する学生のモチベーションの一つとなると考える。高校を選択する際に、卒業生がどこの大学に進学しているのか、過去の実績を参考にする。これから参加する学生にとって、

過去に参加した学生の進学先や就職先が分かれば、自分も頑張ってみようと考え、より活発になるのではないかと思います。

学生が市役所に来て活動することは、他では例がないことであり、非常に良い取組である。目標をわずかに達成できなかったため、評価はBとした。今後は、大学生の参加者数がもう少し増加できればより良いと考える。

(委員) 本校は、全国各地から学生が集まり、例えば中津川市や京都府、大阪府出身者もミライ創ろまい課に参加している。

この活動を通じて、瑞浪市について深く知ることができ、良いまちであると実感してもらえるため、今後もこの事業を続けていただければと思う。

ただ、本校は部活動として関わっておらず、それぞれが自身の部活動と並行して参加している。そのため、部活動の事情により、全ての活動に参加できない。1回参加できないと、参加しづらくなり2回、3回と欠席してしまうことがある。活動日の設定について、本校の生徒も参加しやすいよう考慮いただけるとありがたい。

(委員) ミライ創ろまい課を担当する職員や外部講師の都合で、曜日を固定して実施しているのではないかと思います。個人として参加する学生も気軽に参加できる環境、雰囲気作りが必要ではないか。

(委員) 本事業の個人総合評価について、9人中6人がA、3人がBと、3分の2がAであるが、委員会総合評価がBであるのはなぜか。算定基準をご教示いただきたい。

(事務局) 資料2の1枚目の裏面に、2次評価の評価基準を掲載している。(1)項目別評価のA～Eにそれぞれ得点を付しており、その得点の合計で(2)個人総合評価、(3)委員会総合評価を決定している。その結果、本事業の委員会総合評価はBとなる。

→委員会総合評価はBとする。

5. お試し移住体験事業

(委員) 事業評価シートにて、「全国各地から参加できる状態になっていたか」と「翌年度以降3年間の具体的な内容に記載のある「5～6人を想定」は毎年5～6人増やしていくという意味か」と質問があったので事務局にお答えいただきたい。

(事務局) シティプロモーション課の事業担当に確認をした。募集については、市ホームページや総務省のポータルサイトで行っていたため、全国から応募できる状態であった。また、5～6人を増やすのではなく、5～6人を受け入れるという想定である。10人だと宿泊場所が3ヶ所となり、管理面や参加者同士の交流が図りづらくなると判断し、参加人数を調整した。令和7年度は、新たに、参加者による体験動画制作を業務として依頼したため、業務進捗管理を考慮し5人とした。

(委員) 受け入れる事業者や担当する職員の人員等の関係により、人数を拡大して受け入れることは難しいと理解した。

→委員会総合評価はBとする。

6. 小児インフルエンザ予防接種費用助成事業

- (委員) 意見・コメント欄にも記載したが、本事業の目標設定について、100%を目指すのではなく、過去の実績を踏まえた30%でしか設定できないため、担当課が苦慮されたのではないかと思います。今後、目標設定の変更は可能か。
- (事務局) 第7次瑞浪市総合計画の基本計画について、5年ごとに見直しを行うため、その際に変更は可能である。
- (委員) 予防接種について、必要性を感じる方は多くいるかと思う。やはりコロナウイルス感染症のワクチンが出てきてから、ワクチンに対する不安が広がった。この事業の評価は、その時の社会状況等によって分かれると考える。接種するかしないかは、当事者の問題であるが、本事業を実施していることやそのワクチンの安全性については、十分な周知活動を行っていただきたい。
- (委員) 周知活動について、何か今後の展開、新しい活動の見込みを把握しているか。
- (事務局) 今後の展開、新しい活動の見込みは事務局で把握していないが、保健センター新聞などにて、予防接種の有効性、必要性について周知はしている。今回、いただいた意見を担当課へ共有する。
- (委員) 必要とする方に適切に情報が届くことが重要であるため、周知活動は非常に大切である。目標値が接種率100%ではないのに、なぜ周知活動をする必要があるのかといった矛盾を生まれないような目標設定が必要ではないかと思う。

→委員会総合評価はBとする。

7. 農産物等直売所管理経費（指定管理）

- (委員) バーベキュー広場にある階段を降りると河原へ行けるため、子どもが遊べるかと思いきや、あまり整備されていない状況である。多くの人を集めてバーベキューを行いたいと思っはいるものの、このような状況では、声掛けし難い。
- (委員) 19号沿いで立地的に良いところにあるが、恐らく補助金の関係で、農産物の販売に制限があるかと思う。せっかく好条件な場所にあるのであれば、瑞浪市をPRできるような、より有効的な活用をしていただければ良いかと思う。
- (事務局) きなあた瑞浪は農林関係の施設で、河川は土木関係であり、管轄が異なるため、利用制限はあるかと思う。
- バーベキュー広場はロケーションも良いため、市制70周年記念事業にて活用したが、その他の利用方法について施設側で定められておらず、もったいないことだと思う。きなあた瑞浪では、毎年6月に周年記念祭といったイベントを行っているが、そのときは、子どもたちが河原で遊んでいる様子を見かけたので、今後、上手く活用できないか、いただいた意見を担当課へ共有する。
- (委員) 販売する品目も制限されているか。
- (事務局) 制限される品目について、詳しく把握はしていないが、例えば、美濃焼を販売するちゃわん屋みずなみといった施設が市内にあるため、きなあた瑞浪では、茶碗等を販売しないなど、その施設との棲み分けは行っている。
- (委員) 棲み分けは行っているとのことだが、例えば、きなあた瑞浪の飲食店でちゃわん屋

みずなみで販売している美濃焼を使用し、それPRすることで相乗効果が見込めるかと思う。

→委員会総合評価はBとする。

8. 観光コンテンツ造成事業

(委員) クーポンがある時期は利用者が増加するとのことであったが、例えば、一つの観光施設を気に入っていただき、クーポンを使用しなくても何度も足を運んでいただけるような企画等があれば、そこから瑞浪市を知っていただく機会につながると良いと考える。

(委員) 意見・コメントの内容から、認知度に対する評価が異なっている委員がいるのでそれぞれ確認したい。

(委員) 認知度については、上昇はしてきていると思うが、まだ低いと感じる。
クーポンがあるときなど、大きく周知活動を行うときは、認知度向上に影響があると思うが、それ以外のときは、いまひとつであるという印象がある。

(委員) PR動画の再生回数が非常に多く、これをきっかけに瑞浪市のことを知っていた人がかなり増えたのではないかと思う。ある特定の事業者については、予約が埋まっているほど取材等が難しいという話も聞く。ただ、これが一過性に終わってしまうと、また元に戻ってしまうことが心配である。交付金を活用しなくても、このような事業は継続されると良いと思う。

→委員会総合評価はBとする。

9. 東濃圏広域観光PR事業

(委員) 年間観光入込客数の人数のカウントの仕方が分かりづらい。ゴルフで瑞浪市を訪れた方も観光に含まれており、観光との区別が不明瞭で難しいと感じた。また、東美濃地域として、他市との連携した取組によって、どれだけ効果があったのかが見えにくいと感じた。

(委員) 年間観光入込客数の基準はあるか。

(事務局) 商工観光課が設定した基準であり、県の統計のルールに沿って報告している人数である。

(委員) 岐阜県の観光客数ランキングで1位は土岐プレミアムアウトレットである。率直にアウトレットに来た客が観光客かと疑問に思うところもある。

観光客の数え方によって評価が変わってしまうので、可能な限り正確な数値にて事業を評価されたい。

→委員会総合評価はBとする。

10. 広域バス路線運行維持補助事業

(委員) 本事業は、補助金を交付していると言いつつも、赤字補填といった意味合いが強いと認識している。その赤字幅が、益々増えていけば、補助金額も増やさなければなら

ない。そうすると補助金額で、他の施策ができるようになるのではないかと思う。

(委員) 瑞浪駅から出発して、明智鉄道の明智駅に到着する。現在、明智鉄道では、蒸気機関車を復活させる動きがある。これが実現できれば、瑞浪駅から明智線に乗って、明智駅まで行き、蒸気機関車に乗って恵那駅に行くといった周遊観光ができると考える。子どもが通学に使う路線でもあるので、明智線の存続に期待したいと思う。

(委員) 恵那市との繋がりや公共交通機能を考えると、明智線は存続した方が良いと思う。本路線を無くさないためには、東濃鉄道株式会社の努力も必要であるが、恵那市と瑞浪市の協力も必要である。

(委員) 効率性をCに修正したい。(その結果、個人総合評価、委員会総合評価がそれぞれBに変更となる。)

1次評価の実施状況に、「補助金を交付し、上限運賃制度の導入について協議を進めた」とあるが、どういった内容の協議であったかが不明瞭であったため、もし、その内容が分かればより正しく評価ができたかもしれない。

(委員) 指摘があったように、補助金を無条件に受けるではなく、企業の努力はもちろん必要であるかと思う。本事業を評価する上で、利用者状況を正確に把握していないといった点が気になった。今後、公共交通事業として継続するため、もしくは次の取組を検討する上でも、定期的な数値把握が重要かと思う。

→委員会総合評価はBとする。

1 1. 防犯活動推進経費

(委員) パトロールとして、どういったところを巡回されているか。

(事務局) 瑞浪市は8つの地区に分かれ、それぞれで活動していただいている。ルートについては、その地区の方のほうが、地域のことをよく承知しているのでお任せしている。

(委員) 本校の生徒たちから聞いても、瑞浪市の治安が悪いということは聞いたことがない。こういったパトロール活動のおかげで治安の良いまちが保たれていると思う。

(委員) 犯罪件数は十分に把握しているか。

(事務局) 件数については、警察から共有いただいているが、その犯罪の詳細までを把握することはできない。また、仮に犯罪件数が減ったとしてもこの事業の効果であると判断するのは難しいかと思う。

実際に治安が良いと感じている人の割合など、そういった別の数値を把握していないか担当課に確認する。

(委員) パトロール実施回数を目標指標として、実施回数を増やすことで、ある程度効果もあるかと思うが、地域の方の負担となり、事業を継続することが難しくなるのではないかと思う。300回実施したほうが良いのか、500回実施したほうが良いのか、または、その半分でも効果があるのか、人員や経費を整理することができる根拠があると良いかと思う。

パトロールを多く実施することで、子どもにとって住みやすいまちにはなる一方で、この活動に参加される方の負担が増え、また、一定数の費用も発生するため、そ

のバランスを取るためにもデータが必要である。

(委員) 私の住んでいる地域で青色回転灯パトロールに携わってる方から話を伺ったことがあるが、活動を継続することは正直厳しいとのことであった。活動に意義を感じてモチベーション高くやられる方はいるものの、ボランティア活動として完全無報酬で行われていることは、今の時代では考えにくいのではないかなと思う。

ただでさえ、徐々に活動に参加する方が減り、また、若い方の自治会加入率減少の現状でこの活動の継続は難しいと思う。

もし、持続可能な活動とするのであれば、警察からの表彰回数を増やしたり、例えば、瑞浪市の観光大使など、著名人に会うことができるなど、何かプラスアルファの経験ができるとこの活動に参加していて良かったと報われる人もいるかなと思うので検討されたい。

(委員) 継続するための体制として、個人の思いにだけ頼りすぎると、いずれ限界が来るため、既に見直すタイミングであると思う。無報酬のボランティア活動では、参加者が何かのきっかけで心が折れたとき、無責任に投げ出しても良いだろうと考える人も少なからずはいるかなと思うため、何か報酬があることは継続、もしくは新しく参加いただくために重要であると考えます。

また、青色回転灯パトロールの位置づけについて、防犯という観点からすると、何の防犯に役に立つのか、もしくは、防犯に直接つながらなかったとしても、地域の方々の安心を担保するための活動であるといった位置付けを見直すタイミングでもあるかなと思う。

→委員会総合評価はBとする。

(3) 意見書の構成について【資料3-1】【資料3-2】

<意見、質問等なし>

→個別意見については、議事(2)での発言を含め、意見書を作成する。

3. その他

- ・第5回瑞浪市総合計画推進委員会の日程について

11月13日(木) 13時30分より 4階全員協議会室

以上